

がんばる妹

伊勢原市立桜台小学校

四年 宮脇 秀音

「パパ、ものもらいがもしたないし。お母さんがえう言。て妹を眼科につれて行くことにになりました。先生に見てももらった。三さい児弱視であることが分かった。いつも一緒に遊んでいた妹の右目の視力が弱。ていた。あんなて考えもしたか。た。

今までテレビを見たり、ごはんを食べたりお風呂に入。たり、ゲームをしたり、友達と遊んだり、ふだんの生活と一緒にすごしたほとんどの時に、右目が見えていなかったことを考えると、びっくりしたし、とても悲しかった。お父さんもお母さんも妹に「ごめんね、ごめんね、気がいてあげられなくて。」と何度も妹にあかま。ていました。

お姉ちゃんも、おばあちゃんも、家族みんなが悲しんでいました。でも妹は、

「大丈夫、悲しまないで。」

と笑顔をみんなに見せていました。

「右目が見えづらいのには大丈夫、どうい

うことなんだろう。妹の言葉に、驚きました。

妹の弱視は、せんぶらのメガネをかける

と視力がもどるようです。メガネをかけた妹は

「よく見える」と、何度もみんなに笑顔を見

せていました。きっと、みんなが悲しんでい

る時は、がまんをしていたのだと思いました。

見えにくいのが当たり前だと思っ

ていたから、メガネをかけたことで、見えることの喜びに

気づいたのだと思います。

その後も何度も眼科に行っ

て、検査をして視力が安定していきました。その度に、見せ

る笑顔をぼくに。て、幸せのしゅん間です。

これでやっと妹は、ふだんの生活を自分の

目でたしかめながら、生きていくことができ

ます。それが家族にとっ

ての幸せであります。これがらも妹の笑顔を増

やせるように仲良